

# PMS

パンニャ・メッタ・サンガ  
インドで教育、医療、生活の支援を行う団体です  
Lashkaribag 15/21  
Nagpur-440017 M.S. India  
Tel -91-712-2641096  
Fax -91-712-2651096  
Email pmsangha@sify.com  
HP www.panniyamettrasangha.com



## パンニャ・メッタ会報

智恵と慈悲の心で地球に癒しを

インド古代のパーリ語で「パンニャ」は「智恵」を「メッタ」は「慈悲」をあらわします。

# PMJ

パンニャ・メッタ協会日本委員会  
PMS活動を支援する日本の公式事務局です  
〒520-0113  
大津市坂本3-4-32 宝林寺内  
Tel/Fax 077-578-0110  
Email : support@pmj3.com  
http://www.pmj3.com

## 足元からの世界平和

PMSパンニャ・メッタ・サンガ  
サンガラトナ 法天 マナケ

2014年2月8日禅定林、6日の智慧山法要も仏天の加護、印日多くの方々のご尽力ををいただき無事に終了することができました。土曜日ということもあって、8日の禅定林大本堂七周年法要の参加者数15万人と新聞は報じています。朝の早い時間から日没後も、参拝者が途切れること

の無い一日でした。日常の参拝者の状況、また15万人と言う数字からも、禅定林がインド仏教徒の心の拠りどころとなっている現状を垣間見ることができます。禅定林では社会的束縛や政治的強制を一切排除していますために、純粋な信仰、心の拠りどころとなっております。

牛等の動物とも融合して成り立っていると称賛され、新興経済大国として受け止められるようになったインドではありますが、今なおカースト制度による差別が、人と人の間に深い溝をつくり、仏心両面にわたる生きる術を奪い、摂取する側とされる側で成り立っている国でもあります。5月に低カーストの少女がレイプされた後樹に吊るされる非道の事件の発生を受け国連事務総長は低カーストの人たちの人権を考慮すべきだとの所信表明をされました。インド国憲法はカースト制度撤廃をとらえていますが、国連はインド国内にカースト制度が現存しているとの認識を持っていることの現れではないのでしょうか。パンニャ・メッタ子供

の家また学園に在籍しています、子供達の大半は低カースト家庭の子供であります。彼らの能力に接しますと、この子供達にもチャンスと後押しする人さえいれば本領を発揮、無限大の発展を遂げるだろうことを実感します。また彼らの成長により、インドそのものが

虚飾ない真実の発展を成し遂げることができるでしょう。釈尊は思考は原因であり、行動は結果であると説かれました。独立後のインドは諸外国の憲法と比べても遜色無いものですが、民衆の思考回路に変化が無いために、解決されたいはずの多くの問題が置き去りにされています。

パンニャ・メッタ協会は釈尊の教えを活動の根幹とし、禅定林やドンガルガルの智慧山では、民衆の思考回路に変化を生み、慈悲深い日々を送れるようにと活動ができるようにと、合わせまして、子供の家、学園、図書館、医療活動を通して、一人でも多くの人の物心両面の苦悩解消に努めています。

世界は多くの問題を抱えており、その全てが解決しない限り、正しい世界平和の到来は不可能です。カースト制度による差別は、インドの真の発展を脅かすのみならず、世界平和の観点からも、大きな脅威と言わざるをえません。パンニャ・メッタ協会は一切衆生の共生、世界平和を祈念、活動をしています。



共生祈念の道場、禅定林大本堂の内陣

# 禅定林大本堂落成七周年法要と仏跡の旅

PMJパンニャ・メッタ協会日本委員会 理事長 西光寺住職 谷 晃昭

2014年2月5日、例年になく冷え込みの厳しい日本を後に「禅定林大本堂落成7周年法要と仏跡の旅」参加の13名は、大阪あるいは成田を出発した。

深夜デリーに到着した一行は、6日早朝の便でチャティスガル州の州都ライプールに移動。そこからバスでおよそ3時間ドンガルガル市郊外のプラジュニヤギリ（智恵山）

山上の釈迦牟尼大仏の法要に参加。

パンニャ・メッタ・サンガが1998年2月6日に建立した大仏さまは今年で16回目の開眼記念法要を迎えた。今年も10万人にも及ぶ大勢の信者が集まり、我々を熱烈に歓迎してくれる。法要終了後、現地の篤信の信者さんの自宅で食事を頂く。地元の家庭料理らしく特にナンが美味しい。人々の暮らし安かれと見守る大仏さまに見送られ、更に西行4時間。深夜に至ってナグプール市のホテルに到着。長い一日の行程がやっと終わった。



▲智恵山大仏法要で台座よりの散華。

午後からは、パンニャ・メッタ学園を視察。一昨年「一隅を照らす」運動総本部よりの助成で増築された2教室もしっかり使われ、充実した学園運営が行われている。

2月8日早朝ナグプールを出発、ポーニー市へ移動し大本堂落成7周年法要に参加。近づくにつれ次第に人々の流れが大きくなる。今年は報道発表

表で15万人の人出だったそうだ。照りつける日差しにも負けない人々の熱い心が伝わってくる。

禅定林も確かにインドの人々の中に根付いた。今年からはそれを一層確かなものにするAMDA及び天台宗一隅を照らす運動総本部との共同医療奉仕活動として白内障治療事業がスタートした。これをステップに僻地巡回医療などインド社会で弱者とされる原住部族や貧困層への支援を拡充していく予定である。

また、当面の目標として孤児院（子供の家）の移転問題があるが、これも「一隅を照らす」運動総本部のご支援を受け事業達成のめどがたった。2017年には本堂10周年とパンニャ・メッタ協会の創立35周年を迎える。そのおりに支援頂いている大勢の皆様とともにインドの地でともに祝いたいと願っている。今後ともよろしくご指導ご援助をお願いしご報告とさせていただきます。



▲パンニャメッタ学園の児童・園児たち

2月7日。今日はかねてからナグプール大学の名誉教授である、カンデカル博士（彼はパンニャ・メッタ・サンガの副理事長でもある）から依頼されていた同大学パーリー語仏教学科で国際シンポジウムに参加する。テーマは「仏教と人類の幸福」。インド各地の大学からまた、タイ・ミャンマからも参加者があり、日本側では、仏教大学の川崎秀子先生、西郊良光元天台宗宗務総長、村上圓庵前天台宗社会部長それと私が講演した。



▲禅定林法要で導師をつとめるサンガラトナ住職

# 禅定林大本堂落慶七周年を迎えて

PMJパンニャ・メッタ協会日本委員会 事務局長 白毫寺住職 荒樋 勝善

禅定林大本堂は、サンガラトナ・法天・マナケ住職の発願により2007年に落慶。それから早いもので、本年2月8日で7周年を迎えました。この日、地元ですっかり恒例行事となった記念法要ならびに式典がインド全土より集った15万人（マスコミ発表）もの仏教徒が見守る中、盛大に行われました。

今回、日本からは西郊良光PMJ顧問、谷晃昭PMJ理事長をはじめ、総勢13名が参加。禅定林周辺の村々にある寺院を巡るパレードにはじまり、大本堂における日本式・上座部式・チベット式による各記念法要を行い、インドにおける大乘仏教の布衍と世界平和、そして全ての地球上の生命の共生を願いました。

目下PMJ事務局では、来る10周年の節目に向けて、大本堂周辺の景観整備事業をはじめ、禅定林が目指す大乘仏教の精神による世界平和の発信拠点としての充実と留学僧を受け入れての人材養成の方策を鋭意検討しております。皆様方の益々の叱咤激励とご支援をお願い申し上げます。



▲落慶七周年を迎えた禅定林大本堂

## 【訪印団参加者】

西郊良光(神奈川・円満寺住職)、谷 晃昭(群馬・西光寺住職)、小出晃正(同・禪養寺住職)、村上圓竜(愛知・延命寺住職)、荒樋勝善(兵庫・白毫寺住職)、大塚善仁(同・本寿院住職)、近藤孝道(大阪・神峯山寺副住職)、小林 勇(群馬)、金井英樹(同)、谷 栄子(同)、小出京子(同)、川崎秀子(京都)、大輪智子(大阪) 順不同・敬称略



## ナグプール大学で講義



PMJパンニャ・メッタ協会日本委員会 顧問 円満寺住職 西郊 良光

2月8日、禅定林大本堂落慶七周年法要参加時に、パンニャ・メッタ・サンガが進めている印日仏教徒友好活動の一つとして、ナグプール大学仏教・パーリ語学課において何か話をして下さいとのことでしたので、折角のことですので「法華経」について、私の知っておる点について御話し申し上げました。

「法華経」は釈尊が一番経典の中でその特色を強張され、経の中の主として称された点、またこの法華経の成立には種々の経過があり、すべてが揃って成立したのではない点、更に現在成立している経典の中で、パキスタンのギルギットで発見された写本により、解釈が大きく異なった点等について説明したのであります。

そうして中国において「天台大師」智顛によって中国で普遍し、天台三大部等が著わされ中国仏教に大きな影響を与えた点、更には奈良で得度した折、伝教大師最澄さんが、法華経との出会いを経て、この法華経の説かれている中国、天台山に行きたいと言って訪中し、その法華経を持ち帰った事についても述べたのであります。そうして日本においては比叡山で行なわれている法華経読誦に影響を受け、日蓮聖人が横川で修

行し、更に下山して法華経の弘通に大いに貢献された点についてもその詳細を述べました。現在の日本の仏教は主として天台、日蓮の法華経教団、更には禅の教団、念仏の教団が活躍しているが、法華経を主として活動している教団が多い点についても述べたのであります。即ち法華経を旨として活動をしている教団は法華経による人間の救済を目的として活動しており、法華経教団として如何に日本の社会で働きがあるについても述べたのであります。

以上ナグプール大学でのお話の内容について記しましたが、詳細はまたの機会に致したいと存じます。



▲講演を行ったメンバー。左から3番目が西郊師

## パンニャ・メッタ子供の家訪問記

PMJパンニャ・メッタ協会日本委員会 副理事長 延命院住職 村上 圓竜

禅定林大本堂建立以来既に7年経ったと実感するよりも、やっと7年の年月が過ぎたと感じます。インドの状況は活字の上では上手く表現できないことは周知のことですが、私としては「子供の家」の状況と展望を報告させていただきます。

40数人の子供たちは私たちを笑顔とで迎えてくれました。40人の子供たちはそれぞれの夢を持ちながら元気な生活をおくっていました。子供の家が子供たちにとってどれほど大切な生きる場所であるかは想像ができます。建物自体は老朽化しても生活の面倒をみている人々の優しさとサンガ師の父性で規律も保たれ大人になっていくのが楽しみな子供たちばかりです。

将来のインド社会に貢献できることは間違いありません。ただ今後の事を考えるとこの施設の老朽化と立地条件からするとナグプールへの移転が考えられています。ナグプールでの土地取得はすでに終わり新しい施設の計画が進行しています。幸いなことに天台宗一隅を照らす運動総本部より施設の新築費用の支援が得られることになり、パンニャ・メッタ・サンガの活動が新たな段階に



▲交流会で踊りを披露して訪印団を歓迎する子どもたち

発展していくことになります。インドは12億2千万以上の人口を抱え、カースト社会の中で仏教徒の社会的位置は低く、その中でも子供は劣悪な環境の中に置かれています。その中でも「パンニャ・メッタ子供の家」に住まいする子供たちの状況は、多くの問題を抱えている子供たちにとっての希望の家なのであります。教育が受けられないことによって社会的により不利になることは防がなくてはならないと深く感じます。日本のPMJの会員各位及び有縁の方々に今一度ご支援をお願い申し上げ、報告とさせていただきます。

## 15年ぶりのパンニャ・メッタ・サンガ

カナダ モントリオール在住 ジェームス・サンダース (James Saunders)

1998年25歳の時に初めてインドに来ました。今回は15年ぶり、2度目の訪印を大変喜んでます。

カナダ人の私は当時岐阜県多治見市の学校で英語の教師をしており、共通の友人を介してサンガラトナ師と出会い、彼の活動に大変興味を持ちました。当時師がパンニャ・メッタ子供の家で開催していた日印青少年国際ボランティアキャンプへの参加のために訪印、日印多くの青少年と時間を共有、彼らに英語の歌を教えたことは生涯忘れることのできない経験です。

ある友人とフェイスブックで15年ぶりに再会した時、すぐにインド行きを思いました。40歳になり髪も白くなってきましたが、気持ちは同じものを持ち続けています。15年前と同じ81年購入のリックサックをさげてインドに向かい



▲プレゼントを渡すジェームス氏

ましたが、今回はもう一つ大きな荷物を持っていました。訪印を決めた時から職場の友人たちに頼み子供たちに贈る衣類を集めました。自分の荷物の何倍もある衣類をもってナグプール空港に到着、件の友人が空港に迎えに来てくれました。ナグプールは当時と違い、車とバイクがあふれており、環境悪化を実感しました。モールやショッピングセンターが増えたことに驚き、携帯電話、フェイスブックが一般化しているために帰国後も友人たちと連絡できることを喜びました。

僅かな滞在中にマサラいっぱい料理をたくさん食べ、結婚婚式やお葬式にも参加、PM学園も訪問しましたが、いよいよ待ちに待った日です。前日関係者と一人一人の衣類を包装、1月4日に子供たちにプレゼントしました。想像していた以上の喜んだ顔を見て感涙にむせぶほどでした。子供たちと歌を歌い踊り、楽しい時間を過ごしました。15年前に教えた歌を覚えている子供がいて感激しました。短い滞在中で沢山の思い出ができ、多くのことを学びました。マサラによる腹痛以外には、変化の多いインドを再び訪問したい気持ちで帰国しました。滞在中お世話になった皆さんにありがとうございますを言いたいです。